

## 公共図書館における情報リテラシー支援を創る、拓く、実行する

石川敬史（十文字学園女子大学）

### ■今日のプログラム、レジュメ目次

#### （1）情報リテラシー支援

【講義1】なぜ情報リテラシー支援が必要か？

～公共図書館における情報リテラシー支援を考えるために～

【講義2】公共図書館における情報リテラシー支援の可能性

#### （2）情報リテラシー支援の実際

【グループワークの手引き】

【グループワーク1】

【グループワーク2, 3】

【発表】

【おわりに】

### 【講義1】なぜ情報リテラシー支援が必要か？

～公共図書館における情報リテラシー支援を考えるために～

#### 1. 今日の目標（問題提起）

（1）【創る】Why（なぜ必要か？）

（2）【拓く】What（何を？）

（3）【実行する】How（どのように？）

#### 2. 一般的な「情報リテラシー支援」の事例から冷静に考える……

#### 3. 定義の再検討

（1）『図書館情報学用語辞典』丸善（第4版）

##### ①「情報リテラシー」

「さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力。具体的には、以下の能力を含む。<1>情報へのアクセス……<2>情報の評価……<3>情報の活用…」（下線部分は著者）

##### ②「図書館利用教育」

「図書館の利用者および潜在利用者の集団を対象に計画、実施される、組織的な教育活動。…近年では、情報環境の変化などを背景に教育内容が拡大、多様化し、図書館を含むさまざまな情報（源）の効果的利用に必要な知識が技能（情報リテラシー）の習得を目指す種々の活動を包括する用語と解される。」（下線部分は著者）

## (2) 『図書館利用教育ガイドライン』（日本図書館協会図書館利用教育委員会）

### ① 図書館利用教育の定義

「すべての利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために、体系的・組織的に行われる教育である。」（下線部分は著者）

### ② 各館種版の策定

公共図書館版「図書館利用支援ガイドライン」：1999年8月（理事会承認）

### ③ 目標・方法：領域1（印象づけ）

領域2（サービス案内）

領域3（情報活用法指導）

→理念と目標，実現するための具体的な方法を体系的に示したガイドライン。

## (3) 方法・手段の考え方

## 4. 【ミニワーク1】

### 5. 学校図書館・大学図書館の事例から考える

- (1) 【大学】高等教育のための情報リテラシー能力基準（ACRL）
- (2) 【大学】現代高等教育政策の文脈を解く
- (3) 【大学】学生の生活システム（溝上，2004）
- (4) 【学校】学校図書館の探究型学習
- (5) 【学校】21世紀型スキル
- (6) 【ミニワーク2】

## 【講義2】公共図書館における情報リテラシー支援の可能性

### 1. 公共図書館における情報リテラシー支援

- (1) 現在の状況はどうか……
- (2) 文部科学省関連の資料から読み解く

### 2. 公共図書館における情報リテラシー支援の必要性

- (1) 「第2期教育振興基本計画」 中央教育審議会（2013年6月14日）
- (2) モスクワ宣言（IFLA）2012年6月28日
- (3) 学習権宣言（1985年）（社会教育推進全国協議会，2011）
- (4) 「メディア・リテラシー」（坂本，2009，2014）
- (5) 公共図書館における情報リテラシー支援の目的とは？

### 3. 公共図書館の実践例

### 4. 市民の図書館活用のストーリーとは??

- (1) 図書館の位置づけ，評価再考
- (2) テーマ（主題）の選択・発見，調査の視角
- (3) 資料収集（探索）の技法
- (4) 情報の整理と評価
- (5) 市民主体の調査活動へ

## 5. 【ミニワーク3】

## 【グループワーク】情報リテラシー支援の実際

★公共図書館の情報リテラシー支援として、「何」を「どのように」実行できるか？

- (1) 【グループワークの手引き】グループワークの大まかな流れ（目次）
- (2) 【グループワーク①】公共図書館の「情報リテラシー支援」の分析
- (3) 【グループワーク②】勤務館の情報リテラシー支援の課題
- (4) 【グループワーク③】情報リテラシー支援のプログラムづくり

## 【発表】

- (1) 発表する内容
- (2) 他グループを聞いている場合

## 【おわりに】

- (1) 思い出そう図書館の理念！
- (2) 公共図書館における情報リテラシー支援の可能性